
桜語り

荻野斎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜語り

【Z-UR-ド】

Z-828-Y

【作者名】

荻野斎

【あらすじ】

桜の散る季節とでも言えどロマンチックなのだろうが、この話は全くロマンチックではない。全く持つて残酷で、全く持つて傑作で、全く持つて取り返しのつかない話なのだ。だから始めよう。桜で始まる物語を。

初語り・サクラサク（前書き）

いつも、死にかけている男です。嘘です。ようしければ読んでください。

初語り・サクラサク

悲しい話がある。

多分それは、僕とあいつが出会わなければ始まる事も無い話だつたんだろう。始まる事も無かつたし、始まつてしまつた今でも、始まるべきではなかつたとしか言つ事が出来ない。

どうして出会つてしまつたのか。

どうしても出会わなければならなかつたんだろう。

あいつとの出会いは偶然でもなく必然、当たり前の事だったのだ。

美德的ではなく悪徳的で。

平穏ではなく不穏で。

優良でなく劣悪で。

有意義ではなく無意義で。
自立的ではなく依存的で。

刹那ではなく永劫で。

正気でなく狂氣で。

正常でなく異常だつた。

それは、言つまでも無い事なのだろう。

たつた一つの桜の花弁から始まつたこの物語は、一生終わる事も

無く一生続いていく。

きっと、そういう事なのだろう。

だから始めようじやないか。

あの日は確か、四月四日。曜日から、不吉な日であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7828y/>

桜語り

2011年11月23日13時50分発行